

# かずさの博物誌

## ダイゼン

～脇羽の黒い大型チドリ～

文・写真／成田篤彦

2013.9.20

九月の中旬になっても相変わらず暑い。しかし、渡り鳥はこの暑さとは関係なく渡ってきているのでは？と夕方に干潟に行ってみた。

干潟の岸辺に立つと東京湾横断道でチョコ、チョコと動き回るムクドリ大のシギがいた。ハマシギの群れ？と思った。

干潟を歩くと長靴が砂にめり込む。最短距離を急いで近づくと飛び立つので、姿勢を低くし左右に迂回しながら少し近づいた。

しかし、群れはハマシギではなく、二十〜三十羽のメダイチドリであった。その中に、



▲飛ぶダイゼン、脇羽が黒い  
=2008年10月10日 富津市

一回り大きくてずんぐりした小鳥が数羽いた。頭が大きく、眼が真っ黒で真丸。くちばしが、太いくぎのように尖っている。腹が黒色だが、まだらになっっている。さらに、近づくともダイチドリが群れをなして飛び立った。その後、数羽の小鳥が数メートルの高さに飛び立った。急いで、シャッターを切った。カメラの液晶画面を拡大すると腹と脇羽が黒い。ダイゼンの群れだ。もう、渡ってきているのかと嬉しくなった。さて、ダイゼンは上総では夏を除いて、ほぼ一年中見られる、大型のチドリ科の渡り鳥だ。初夏には背が茶、顔、胸、腹



▲海岸でえさを取る冬羽のダイゼン  
=2013年1月4日 富津市

が真っ黒な夏羽のダイゼンが干潟のゴカイを引っ張り出し、食べている姿が見られる。秋の盤洲では十数羽の群れが見られた。渚線の付近でいたい休息している。流れ着いたタイヤの上で眼をつぶっていたりする。近づいてもこちらを見て、警戒するが、あまり急いで逃げないおっとりした小鳥だと感じた。冬には海辺で小さな貝などを食べている姿も見られる。



▲ゴカイを引き出す夏羽のダイゼン  
=2010年5月8日 木更津市

著しく、ここ数年でも上総に訪れる数が減少している。数が少なく他のシギなどにまぎれて目立たないが、忘れてはならないチドリ類である。

### memo

#### ダイゼン

チドリ目チドリ科 旅鳥

全長約29cm。ムナグロとよく似ているが、一回り大きく、脇羽が黒い。内陸部ではあまり見かけない。ユーラシア北部、北アメリカで北部のツンドラで繁殖。東南アジア、オセニアなどで越冬する。上総では越冬するものもいる。

くちばしで地面を掘り、二枚貝やゴカイ、カニなどを捕える。県指定重要保護生物

参考文献 桑原和之・1996・ダイゼン・

日本動物大百科。巻鳥類1

©成田篤彦



▲干潟を舞うダイゼン=2013年9月6日 木更津市

©成田篤彦



▲休息するダイゼン=2007年11月15日 木更津市

©成田篤彦

Background information and notes about the bird, including its classification and habitat.